

採集者 倉橋英士（8才、神戸市立本山南小学校3年生）

採集地 神戸市東灘区本山南町3丁目（そえだモータープール）

採集日 1990年4月22日（日）

採集した時の様子

そのモータープールは、（彼の）自宅のすぐ傍で、周囲の草むらにいろいろな虫がやってくる。この日、変なチョウがいるなと思って、素手で捕らえた。見たことのないチョウだったので、翌日は兄の正剛君（14才、神戸市立本山南中学2年生）と連れ立って捜しに言ったが、一匹も見つけられなかった。

この日の鑑定会では、大倉正文（日本甲虫学会）・森和夫（同）両氏も鑑定（同定）・指導に当たっておられたが、「誰かの飼育品が逃げたか、誰かが放したのだろう。放したとすれば、環境条件としては住宅街であり、必ずしも好適地ではない。もう少し北に上がれば六甲山の麓になり、食草となるウマノズクサもそこそこある。そこに運んで、放すだろう。だから、これは、逃げ出した個体の可能性が強い」との結論に至ったが、その確証は何も無い。予断や偏見があってはいけないだけに、今後の採集・目撃情報が待たれる。

## 兵庫県産珍稀な3種のクビボソハムシの記録

（兵庫県甲虫相資料・239）

高橋寿郎

### ○ アワクビボソハムシ神戸市内で採集

アワクビボソハムシ *Oulema dilutipes* (Fairmaire) は中国北京産で *Lema* 属で記載された種である (Rev. d'Ent. VII, p.149, 1888).

本種が日本に産すと初めて記録されたのは中條道夫・木元新作両博士により *Hapsidolem* 属として記録された (Niponus, Takamatsu, Vol. 1, No.4:3, 1960). そしてその記録に用いられた標

本中に山本義丸氏が採集された氷上郡柏原産がふくまれていた。即ち兵庫県からも日本で初めての記録と同じく記録されたことになる。氷上郡からは柏原以外山本義丸氏によって遠阪村が記録されている(1953, 1958)。最近磯野昌弘氏は美方郡浜坂町味原から本種を記録された(この記録は朽木中より採集と大変興味深い記録である)(IRATSUME, No.8/9, p.85, 1985)。兵庫県下での本種の記録はと言うと以上のものを知るだけであった。県下では可成り珍しいハムシの1種ではないかと考えられる。

1988年9月28日神戸市西区伊川谷前開の休耕田の草叢をカメムシ類採集の目的でスーピングをやっていたところ *lex.* が網に入った。直ちにこの種らしいとわかったもので可成りの時間付近を丹念にスーピングしたのであるがそれ以外全く採集出来なかった。時期的に若干遅かったのかもしれないがとにかく市内でこの様な種に会えたことは大変うれしくもっと調べたら案外あちらこちらにいる種なのかも知れない。

食草はアワ、モロコシ、エノコログサと言われている(10月4日も再度採集地点を訪れることが出来たので約1時間程スーピングをして見たがやはり2頭目を見付けることは出来なかった。

○ トゲアシクビボソハムシ加東郡東条町森で採集

トゲアシクビボソハムシ *Lema coronata* Baly は“Nagasaki, on the Chrysanthemum”産で記載された種である(Trans. ent. Soc. London, 1873:72)。

桑山 覺博士は Kumamoto, Mizoro-Ike Prov. Yamashiro, Fukuoka を産地として報告された(Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ. Jour. 33(1):70, 1932)(本州からの初めて記録になると思われる。)中條道夫博士は本州から *isp.* Tokusa (Honsyu) 10-VI-1922 (Col. T. Shiraki) を記録された(Sylvia, Vol. 4, No. 1, p.19-20), その後中根猛彦博士は日向高鍋産1♂の異常型(3-5. VII. 1945) *ab. takanabensis* Nakane を記載された(昆虫学評論 Vol. 5, No. 1, p. 53-54, pl. 3, f. 1, 1950)。

中條道夫・木元新作両博士は1960年に桑山博士が記載されていた *L. formosana* を *L. coronata* の *forma* とすると同時に *ab. takanabensis* もこの *forma* であるとされ分布は台湾、日本(九州)とされた(Niponius, Vol. 1, No. 4, p. 3)。さらに木元博士は1961年に佐賀から記録された *L. sagaensis* Heinze が *L. coronata* のシノニムと発表された(Kontyu, Vol. 29, No. 3, p. 162)。1964年には *L. formosana* を本種の亜種とされた(Jour. Fac. Agr. Kyushu Univ. Vol. 13, No. 1, p. 126, 1964)。

大野正男教授はそれ迄の知見をまとめて *formosana* を *coronata* の *forma* と扱うとされている

(昆虫と自然 Vol. 2, No. 3, p. 17, 1967)、一番新しい木元博士の検索によると本種の分布は本州、四国、九州、琉球、中国、台湾となっている(昆虫と自然 Vol. 22, No. 2, p. 26, 1987)。

図説は後藤光男氏(1955)、中根博士(1963)、木元博士(1984)とあり生態については高倉康男氏の報文がある(新昆虫 Vol. 4, No. 7, pp. 17-19, 1953)

こうして見てくると分布も割合広いし図説もされていて意外と普通にいる種なのかもしれないが筆者が見ている範囲では記録はそれ程目につかない。

ところで兵庫県下での本種の分布はとながめて見ると(残念ながら筆者県下では未採集)本種を兵庫県下から一番始めに記録されたのは故後藤光男氏の様で宝塚市内(IV-1950)からの記録でこの標本は保育社の原色日本昆虫図鑑(上)甲虫編(1955)の中にカラーで紹介されている。氏は“5~7月頃出現するがすくない”と記しておられる。

次いで山本義丸氏が氷上郡から記録された(1985)がデータが無い。高橋 匡氏は出石郡出石町水上(19-VII-1063)から記録された(1963)。大野正男教授は津名郡愛宕山から3exs. 採集(7-V-1960)記録された(1969)。また森 和夫氏は神戸市の藍那から2exs. (7-VII-1985)を採集記録された(1986)。

以上が今迄の県下で記録された総てではないだろうかと思われる。やはり記録が意外と少なく県下では個体数の少ない種なのではないかと思われる。蜂谷幸雄氏は加東郡東条町森の池畔で 1ex. を採集され(18-V-1984)その標本を御恵与下さった。県下の新しい産地として記録しておきたい。やはりもう少し詳しく各地を調べて見なくてはいけないと考えている。食草はツユクサと知られている。標本を御恵与下さった蜂谷幸雄氏に厚く御礼を申しあげる。尚三木中学校生物部採集報告書(1989)に記録されている三木産の本種の記録は本誌 Vol. 18, No. 1 (p.15)に記したようにキバラルリクビポソハムシと云うことになる。

#### ○ キベリクビポソハムシ龍野市で採集

キベリクビポソハムシ *Lema adamsii* Baly は大変美しいクビポソハムシである。

中国 Chusan 産標本(A. Adams が僅か1頭採集)に基いて Baly が記載された種である(Ann. Mag. Nat. Hist., (3)XVI. pp.155-156, 1865)。

日本からの記録は同じく Baly による長崎が始めてのようである(Trans. Ent. Soc. London, p.75, 1893)。

本州からの記録としては桑山 覺博士のものが始めてであろうと思われる。但しこの記録は本州の何処であると云う産地は記録されていない。またキベリクビポソハムシなる和名もこの桑山博士に

よるものであろうと考えられる (Jour. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ. Vol. 33, pt. 1, p.77-78, 1932).

現在分布は本州、伊豆諸島、隠岐、四国、九州、対島、種子島、朝鮮半島、中国となって分布は広い。本州では東京あたりが分布の東北限になっているようであるとされている (大野正男、昆虫と自然 Vol. 2, No.13, p.16, 1967)。

大野氏によると比較的珍しい種であるため一度に多数とれることが少ないとも述べておられる。

斑紋が色々に変化するようでこの点に就いては中條道夫博士の詳しい報文がある (新昆虫 Vol. 7, No. 12, p.4-6, 1954)。

兵庫県下からの記録も大変少ない。筆者自信は宍粟郡音水で1頭採集しているだけであった。1988年6月13日龍野市神岡町の池畔を飛んでいる1頭を採集することが出来たので此処に報告しておきたい。付近を詳しく捜して見たがヤマイモハムシ *L.honorata* Baly が3頭採集出来ただけでとうとう本種はこの1頭以外採集出来なかった。食草はヤマイモ、オニドコロなどが知られている。この結果県下の本種の記録地点は次の様になる。

龍野市神岡町 (lex., 13-VI-1988). 神崎郡大河内町川上 [木元, 日浦, 1971]. 宍粟郡音水 (lex., 21-VI-1972). 水上郡神楽町稻土 [山本, 1953, 1958]. 出石郡出石町林木 [高橋, 1963].

また県下では珍しい種と考えられていたジユシホシクビナガハムシ *Crioceris quatuordecimpunctata* (Scopoli) (従来からの県下の記録は磯野氏による美方郡浜坂、城山だけであった、1979, 1985) が最近城崎郡竹野町のアスパラガス栽培地に多数見られるという報告をしておられる (IRATSUME No. 13・14, p.52, 1990). 新聞報道によると神崎郡大河内町犬見川流域にもアスパラガスの栽培が盛んで今年あたりから京阪神地方にも多く出荷出来るようになったとのこと大変申し訳ないがこのハムシこの地域でも見られるのではないだろうか。竹野町から報告された本庄四郎氏も言及されておられるように日高町の神鍋高原温泉町の畑ヶ平高原の高原野菜としてのアスパラ生産地にも恐らく見られるのではないかと考えられる。